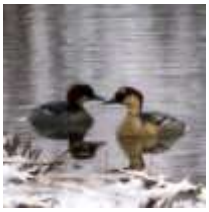
滝川高校ＳＳＨ通信

発行：2019 年 4 月 11 日　　SSH・理数科　第２号

滝高科学部＆サイエンスアクションチーム

江部乙うりゅう沼周辺 自然観察合宿を実施



4/5～6

雪解け迎えた北空知の田畑にマガンとハクチョウが多数飛来中。

南空知で渡り鳥の寄留地として知られるラムサール条約登録湿地・宮島沼は、世界有数のマガンの飛来地です。宮島沼では、４月中旬から下旬にかけて、東北南部の湖沼（宮城県 伊豆沼・蕪栗沼・毛女沼などが有名）から、ロシアのカムチャッカへ、繁殖・子育てに向かうマガンの飛来数がピークを迎えます。例年６～８万羽がねぐらとして宮島沼を利用し、体力を溜めて一斉にカムチャッカへ飛び立っていきます（約２千キロを時速１００キロで一気に渡ります）。まだ宮島沼の水面が雪に覆われている３月下旬から、石狩川周辺一帯の湖沼で、徐々にマガンやハクチョウといった渡り鳥の偵察隊を観察する機会が増えてきます。

空知で春の訪れを告げるのが、渡り鳥の飛来です。雪解け時期とともに、南から北（シベリア方面）へ向かうマガンやハクチョウの群れが続々と北海道に渡り、空知の田畑では、エサをついばむ姿が目撃されるようになります。渡り鳥が畑で何をしているかというと、土がむき出しになった田畑で、落ち穂などのエサをついばんでいます。雪解け水が田畑にあると、鳥たちがついばむピチャピチャという音が聞こえてきます。時に、ハクチョウたちがエサをめぐり、羽を広げて大きな鳴き声を上げることもあります。

鳴き声を上げながら上空を飛ぶ渡り鳥の飛行隊も、空知に春が来たことを告げる光景です。マガン、ハクチョウなどが V 字型に並んで飛んでいく「V 字編隊」もよく見られるようになります。通常マガン、ハクチョウそれぞれ別々に V 字編隊を組みますが、時々、マガンの編隊の中にハクチョウが混じって飛ぶ姿なども目撃されます。

宮島沼の雪解けが進む少し前の時期、**実は滝川市でもマガンや渡り鳥の群れを観察できる場所があります。**昔、石狩川が蛇行していた箇所が、三日月湖などの湖沼となって残り、それらが点在しているのです。**滝川市江部乙にある三日月湖「うりゅう沼」**にも、宮島沼の雪解けが始まる前、約一週間ほどの短い期間ですが、**約３～４千羽のマガンが入ります**。地元の方の話によると、ここ何十年かのことで、それ以前にはマガンが入ることはなかったそうです。

そこで、滝高科学部と有志生徒を募って、３年ほど前より、マガンの「ねぐら立ち」や「ねぐら入り」、石狩川河畔周辺の自然観察行っています。

江部乙うりゅう沼で、マガンのねぐら入りの様子

江部乙周辺の田畑を雪上ねぐらにするマガンたち

ＪＲ江部乙横の防風林に営巣するアオサギ

石狩川河畔にいたオジロワシ

エゾエンゴサク

江部乙駅前アオサギのコロニー

田畑のオオハクチョウ

※掲載写真は、滝高科学部員によるものです。

キタキツネの姿も、

ムクドリ

石狩川河畔にいたオジロワシ

江部乙の公民館にて宿泊（昨年度の写真）

渡り鳥が間近で見られるこの時期、雪解けが進む空知の畑地を訪問し、春の訪れを感じてみてはいかがでしょうか〔スプリング・エフェメラルも！〕。

SSH の主な活動は随時滝川高校ホームページに掲載いたします。